はじめに

昨今、道路事業等の開発は山間部や森林などに進み、動植物の生息、生育地の地形や環境の改変に対する影響を如何に少なくしていくかが、課題となっている。特に希少猛禽類は、樹林地などの環境における生態系の上位種として注目されている。希少猛禽類の環境を保全することにより、その食物となる小型の哺乳類や、鳥類、そして、それらの食物となる昆虫や植物等が生息、生育できる環境全体の保全に繋がっていくものである。

しかし、希少猛禽類の生態は、まだ解明されていないことが多く、影響を把握するための調査手法は確立されていない．調査を行うのに，多大な時間と労力をかけているのが、現状である。そこで，本研究は，希少猛禽類の生態を把握し、その生態特性を鑑みた効率的な調査手法を開発することを目的に実施したものである。

本資料は、その成果として、希少猛禽類の生態を把握するため平成10年から平成14年に栃木県と長野県において、オオタカ、サシバを主とした希少猛禽類の繁殖状況、行動圏、利用環境等の調査を実施した結果、及びその結果から求められた効率的な調査方法等についてとりまとめたものである。

本調査の実施にあたっては、『希少猛禽類の生態把握手法に関する検討委員会』を設置し、調査方法等について、ご指導、ご助言を頂いた検討会委員をはじめとした多くの方々、機関に、ご協力を頂いた。また、内田博，遠藤孝一，茂田良光，中村浩志の諸氏には本資料全文に目を通していただき，貴重なご意見を、平野敏明氏にはサシバの項についてご意見を頂いた．

以降に協力して頂いた方々の氏名を記して感謝の意を厚く表す。

平成16年12月

国土交通省国土技術政策総合研究所
環境研究部緑化生態研究室

希少猛禽類の生態把握手法に関する検討委員会

東京大学生物多様性科学研究室　教授	樋口広芳
信州大学教育学部生態学教室　教授	中村浩志
財）山階鳥類研究所標識研究室　室長	尾崎清明
日本オオタカネットワーク　代表	遠藤孝一
日本オオタカネットワーク	内田　博

現地調査担当者

金井 裕・山田泰広・加藤ななえ・矢野正則（日本野鳥の会）、遠藤孝一・平野敏明・千野繁・野中純・小堀政一郎・君島昌夫・内田裕之・志賀陽一・小堀脩男（日本野鳥の会栃木県支部）、茂田良光（山階鳥類研究所）、青山信、林三浩、植松晃岳・植松永至・大関 豊・木下通彦・久野公啓・佐伯元子・長坂守芳・中村照男・橋本肇・細江崇（信州ワシタカ類渡り調査研究グループ）、篠原喜運・宮川信夫（信州猛禽調査グループ）、堀田昌伸（長野県環境保全研究所）、奥原幹雄・清滝淳也・兼宗育子・酒巻裕三・佐々木真吾・中村正人・増田英司・松田貴子・柳沢 順（（株）協同測量社）、小竹朋美・田久保若菜・丸山和麻・宮沢 誠・守山拓弥（信濃公害研究所）、植木康徳（日本野鳥の会諏訪支部）、繁田祐輔（野生生物管理）、吉川 登（松本市アルプス公園）、川崎公夫、巣山第三郎、湯浅晃・村井英紀・渡辺昌一・牧野道彦・川上寛人・池谷亮一・國師祐紀子・野澤智博・赤司大輔・永田旬子（（株）プレック研究所）、塚本吉雄・太田望洋・丹野幸太・日野彰彦・下山裕樹・森島啓司・牛澤理・福留正明・関口克己（アジア航測（株））、徳野庸・野上浩典・町田聡（パシフィックコンサルタンツ）、高永博実（国立環境研究所）、呉盈瑩・山浦悠一（東京大学）、石昌樹（朝鮮大学校）、松林健一（セントラル・コンピューター・サービス（株））、井本郁子（（株）緑生研究所）

調査協力者

東淳樹（岩手大学）、長谷川雅美（東邦大学）、木部直美、廣瀬三枝子（国土交通省）、西廣淳（東京大学）、田中隆（都市緑化技術機構）、林光武（栃木県立博物館）

調査協力機関

環境省自然環境局野生生物課、同生物多様性センター、国土交通省国土地理院測地観測センター衛星測地課、同地理調査部環境地理課、栃木県土木部道路建設課、同林務部自然環境課、水資源開発公団思川開発事務所、（株）パスコ、ESRIジャパン（株）、北海道地図（株）、（株）ニコン・トリンブル、日本スペースイメージング（株）

写真提供

植松晃岳（P24左, P25）

内田　博（P8上, P10, P16右, P17, P18, P19, P21右, P22, P24右）

久野公啓（P8下, P21左）

中村照男（P16左）